

狭い日本では、発電に火力発電の何百倍もの広大な土地を必要とするメガソーラーや風車は、無理です。現在、各地で空気中の二酸化炭素削減名目で二酸化炭素の吸収源である森林を伐採して再エネ開発が行われています。当時経産大臣萩生田氏も、小学生だって何のために木を伐るのかと国で答弁。

現在の再エネ事業は、国土大破壊、自然大破壊、水源の森大破壊、クマを初めとする森の動物たちの生息地大破壊、増災その他のデメリットでいっぱいです。もうかりさえすれば何をしてもいいという国内外の業者たちが再エネ推進議連の国会議員たちを動かして、法律の規制緩和を繰り返し、どこでも事業を可能にした。

国民が条例や法規制を求めて声を上げ、日本国を守るしかない。山林所有者が山林を売らない仕組みも必要。

森林破壊型風力発電デメリット

風車病、振動、騒音、ちらつき、コウモリ死亡、バードストライク、落雷による出火、台風や地震で倒壊、外資が多く連絡困難

<共通デメリット>

- ・ 野生動物たちの生息地破壊で里に大量出沒
- ・ 山崩れによる災害
- ・ 泥水が流れ出し田畑や川、海を汚染
- ・ 水源の森破壊で水枯渇
- ・ 水源や土壌を化学物質で汚染
- ・ 廃棄物の処理法なし
- ・ 20年後の自然修復不可能



(これからのエネルギー)

- ・ 節電、省電、
- ・ 小水力発電など地産地消発電
- ・ 電気に変換するとロスが多いため元エネルギーを直接利用
- ・ AIなど大量の電力を要するものを一般化させない
- ・ 送電ロスなく都市部で発電

森林破壊型メガソーラーデメリット

除草剤使用、夏の表面温度70度、浸水時の感電、火災時に水による消火不可能。相次ぐ転売で責任者不明に。

―― 再エネ先進国ヨーロッパでは、今や風車止めろの大運動 ――

風車病に苦しむ和歌山県の由良守生氏は、再エネ先進国のヨーロッパでは「風車止めろ」の声が大きくなっており、風車反対のデモが各地で起きていると「由良守生オフィシャルHP」で詳しく伝えておられます。なぜ日本のマスコミはこのようなニュースを伝えないのか、不信感を抱きます。風車業界は売れなくなった風車を、日本で売りさばこうと必死のようです。



写真:ハインツヨーゼフプレーラー(シュベッサルト自然公園)での風力タービンに反対するデモの参加者